

目指す教職員像に向けて ～月1回の実践レポートの交流～

みなさん、こんにちは。

今回は、少し趣を変えて、宮園小の全教職員で取り組んでいることを一つご紹介します。

宮園小学校では、学校経営構想に示す「目指す教職員像」に迫るための取組の一つとして、毎月、全ての教職員がその月の自分の教育実践をレポートにまとめ、それをもとに全教職員でワークショップをしています。

これまで度々お伝えしてきたように、今年度の本校は、「自立」「多様性の尊重」「挑戦」の三つをキーワードとして教育活動に取り組んでいます。この実践レポートの交流は、教職員自身の三つのキーワードを踏まえた取組です。具体的には、

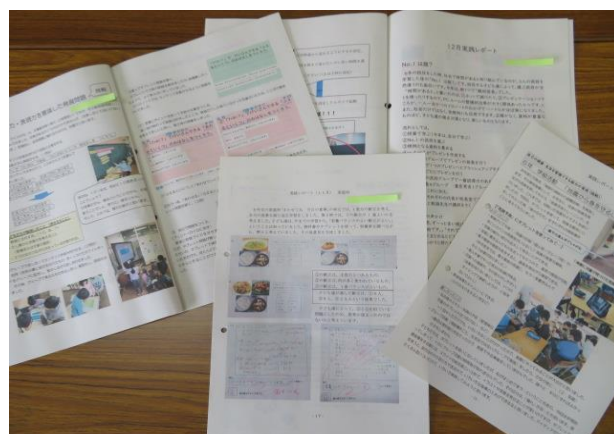
- ①自己の教育実践を振り返る機会とする（自立）、
 - ②他の教職員（同僚）の実践を知り、学ぶ機会とする（多様性の尊重）、
 - ③共に学び向上しようとする宮園小の教職員文化を創造する（挑戦）、
- を目的として行っています。

この取組は、学校再開後の6月から始めました（8月を除く）。校長・教頭・教諭・養護教諭・事務職員の13名全員が書きます。分量はA4・1枚程度で形式は自由です。毎月の分量としては少ないかもしれませんが、2月までで一人8レポート。全レポートを合計すると104本の実践レポートが作られたことになります。

1月のレポートのタイトルをいくつか紹介すると「思考力・判断力・表現力を意識した発展問題」「個別最適な学びに繋がる授業づくりの検討」「会社活動しよう」「何事にも丁寧に取組ませる」「個に応じた指導・支援（キュビナの活用を中心に）」「委員会活動の工夫」といった具合で、まさに多様な実践がレポートされています。

これは校長としての欲目かもしれませんが、毎月継続して実施することで、月を追うごとにレポートの内容が充実してきたと思っています。また、60分のワークショップが終わってからも、他の教職員の実践を詳しく尋ねる姿や、数人で対話する姿が多く見られるようになってきました。

これからも、実践レポート、継続していきます。



令和3年2月26日 校長 中谷 一志